

保育園ポポラにおける発達凸凹サポートへの取り組み ～経緯と今後の展開～

保育園ポポラでは、お客様、現場スタッフの声をもとに、発達に特性のある子どもやその保護者をサポートする「発達凸凹サポート」に取り組んでいます。本資料では、その取り組みの経緯と今後の展開についてご紹介します。

今の子育てを取り巻く社会課題

● 待機児童問題の次に見えてきた“発達への不安”

近年、幼保一元化などの政策実行や出生数の減少により、地域差はあるものの待機児童問題は一定程度改善が図られてきています。

一方で、小中学生において、支援が必要な児童生徒数の増加も指摘されており（図1）、就学前・乳幼児期に「うちの子は大丈夫だろうか」と発達に不安を感じ始める保護者の声や（図2）、保育スタッフからの「集団保育が難しい子が増えている」という声も増えており、発達への不安は大きな課題の一つになってきています。

● 保育園に求められる“預かる”以上の役割

「孤育て」「ワンオペ育児」も増える中、発達に関する心配は誰にでも気軽に相談できる内容ではなく、相談先や判断基準が分かりづらいケースもあります。また、園によっては受け入れが難しい場合もあり、保護者の不安はますます大きくなっています。

「就業中に子どもを預かってほしい」という従来のニーズを超えて、子どもの発達支援や保護者の悩みに、ワンストップで対応できる拠点としての機能が求められてきています。

図1 特別支援教育を受ける児童生徒数の増加

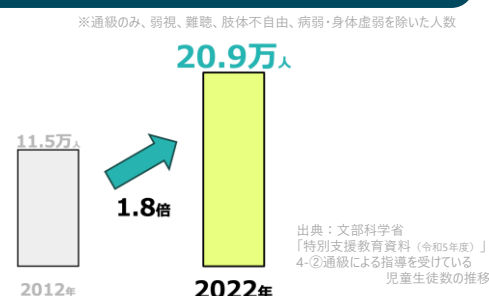


図2 「なんとなく他の子と違って育てにくい」と思ったことはありますか？



発達支援への取り組みの原点とこれから

● 「受け入れること」から始まる保育サービス

創業時から、「どんな働き方でも、どんな子どもでも、安心して預けられるサービスを届ける」という想いを大切にしてきました。24時間保育や病院内保育所など、柔軟なサービスを生み出してきたのも、“断らない・受け入れる”という姿勢が原点にあります。

そして、利用者や保育スタッフの声に耳を傾けてきた中で、新たなサポートの形として、発達凸凹サポートという取り組みが生まれました。

● 発達凸凹サポートとは？

一般的に「発達支援」というと、「できない」「遅れている」ことを支援する、ネガティブなイメージで語られることが多くあります。

しかし、「保護者が『他の子と違うかも』と感じる違和感は、決して否定的なものではなく、“理解の入り口”である」（高畑先生）、そして、「子どもの『好き』や『得意』は、その子が自分らしく成長していくための大切な鍵」（阿川先生）と捉えて、好きなことや得意なことに十分取り組める環境づくりや、成長につながる体験ができるカリキュラムの実施、そして、日々の小さな気づきを保護者の方と共有しながら見守る体制を整えています。

凹と凸の両方に目を向けて
子どもの“やりたい”を大切に
前向きな保育・教育の在り方

発達凸凹サポート

発達支援

凹の部分

できない
遅れている
→できるようにする

凸の部分

得意
進んで取り組む
→もっと好きになる

発達凸凹サポートの主な取り組み

発達に特性のある子どもやその保護者を支えるため、様々な取り組みを行っています。



- **あそコン（あそびコンテスト）**
子どもの発達に合わせた手作りおもちゃの社内コンテストを実施。日常の保育で活用できるおもちゃをスタッフが制作し、保育の質向上やスタッフの研究・取り組み強化につなげています。



- **発達相談・講演会（保護者向け）**
子どもの発達に関する相談会や講演会を保護者を対象に開催。家庭での育児や発達理解を支援しています。



- **凸すて（発達凸凹すてーしょん）**
発達に関する質問を気軽にできるアプリ。提携する専門家・有識者がスタッフからの相談に回答します。現在はスタッフ向けに運用中で、来年度以降は保護者向けにも公開予定です。



- **野外活動・大型イベント**
子どもたちの非日常の体験ができる野外活動や大型イベントを実施。社会性や非認知能力の育成を目的としています。



- **発達に関する研修・勉強会（社内スタッフ向け）**
発達理解や支援スキル向上を目的とした社員研修・勉強会を定期的実施しています。

当社の核となる保育コンセプト『ソロ教育』

● 保育業界初の取り組みを次々に

当社では、自立に向けた教育「ソロ教育」（ちゃんとひとりできるもん）という保育コンセプトを掲げています。日常の保育では自主性を重んじ、子供達の“できる”を伸ばす独自のソロ教育カリキュラムを実施し、保育・子育てサポートに取り組んでいます。また、日常の保育以外にも、キャンプなどの自然体験活動、大型の体験型イベントなど、子どもの挑戦する心や好奇心などを育む、新しい取り組みを常に作り続けています。

● 保護者と共に子育てに取り組む

集団保育の場だからこそ見られる子どもの“好き”や“得意”を保護者と共有したり、普段通っている保育園で保育スタッフや子育て仲間に気軽に相談したりできる場になることを目的に、行事やイベントを通して、保育スタッフや保護者同士の関係づくり、環境づくりにも力を入れています。



取材可能事項

 **阿川 勇太先生** 大阪総合保育大学講師、看護師・保健師・保育士

 **高畑 脩平先生** 藍野大学講師、作業療法士

 **りっきーさん** インフルエンサー・モンテッソーリ教師・保育士

▼ お話し可能な内容

- 発達凸凹サポートの必要性や効果について
- 園で実際に取り組んでいる様子

関東・関西一円に多数施設あり、保育スタッフへの取材、および施設内一部撮影（写真・動画）も可能です。

報道関係者様
お問い合わせ先

株式会社タスク・フォース ブランドコミュニケーション室広報PR課 担当：佐藤・綿野
E-mail : kikaku@taskforece-pr.co.jp
TEL : 06-4795-6090（直通）